白山市各種団体女性連絡協議会との意見交換会で寄せられた意見（令和6年9月協議）

No	白山市各種団体女性協議会からの主な意見	常任委員会での協議内容
1	<p>地震やハザードマップ、海拔の案内看板、避難所の種類などをもっとしっかりと周知する方法を検討すると共に、掲示物も見やすいものにしたほうがよいのでは。</p>	<p>ホームページの掲載のみならず、防災訓練や防災講座等で周知をしていきたいと思えます。新しく作るハザードマップにつきましても、市民の皆様が避難所等の位置を確認しやすくなるよう、町名、公共施設名等を表示いたしますとともに、地図の縮尺等、広域的な避難経路がわかるように調整を行い作成し、周知・案内をしていきたいと思えます。</p>
2	<p>家族同様のペットと共に過ごせる避難場所が欲しい。行政の答弁には市内全ての避難所にペット飼育スペースを設ける計画としている。しかし、軒先や屋外であっても、ペットアレルギーの人もあるので、一緒にはできない。</p> <p>今後、ビジネス学校と協定を結んで対応していくようだが、すみ分けして避難所運営ができないのか。</p>	<p>横江町にキャンパスがある学校法人国際ビジネス学院と災害時におけるペット同伴避難所に関する協定の締結を行うこととしております。この協定により、大規模災害時には、犬や猫の飼い主と一緒に避難できるスペースを国際ビジネス学院に提供していただけることとなりますので、市民の皆様にも周知いたしますとともに、活用いただきたいと思えます。</p> <p>今後国際ビジネス学院との協定の他に、市内のホテル・旅館等のうち、ペット同伴同室避難・宿泊できる施設をリスト化し、迅速に対応していく体制を整えてまいりたいと考えております</p>
3	<p>耐震改修のための耐震診断について改善しているようだが、簡易耐震診断と精密診断のどちらも選べるようにしてはどうか。</p> <p>それぞれの家庭での状況が違うので、一概に制度を変更しなくてもよいと思う。被災者が選択できるようにしていくべきだ。</p>	<p>現在の耐震事業については、平成19年から耐震改修促進計画に基づき行っています。耐震改修工事を行うには、精密診断を行う必要があり、当初、耐震診断は精密診断のみでスタートしました。精密診断は柱や壁を全て現地調査し、ケースによっては部分破壊調査が必要な場合もあり、経費や時間の負担が大きく、なかなか実績が上がらない状況でした。</p> <p>そこで、平成26年度に制度変更し、図</p>

		<p>面があれば基本的に無料で行える簡易診断制度としました。簡易診断とはいえ、本市の技術職員が調査し、県建築士事務所協会の耐震改修に関する講習を受講された建築士が診断いたします。経費や時間の負担が軽減されることで、診断を受けるハードルが下がり、結果的には耐震改修工事に至る件数が多くなっていることから、現行の診断制度を継続していきたいと考えます。</p>
4	<p>避難所だけに限らず、施設整備に関してスフィア基準とまではいかないまでも、女性に配慮したトイレ数にしてはいかがか。</p> <p>どの施設も常に女性トイレが行列になっているので、基準をつくってはどうか。</p>	<p>避難所開設のトイレ設置につきましては、実際に避難した方の男女比を考慮し、設置する計画としております。</p> <p>公共施設のトイレ設置につきましては、施設用途等により、利用者の男女割りを考慮して設置しております。</p>